

# 関西大学博物館所蔵蓑虫山人由来の土偶

山下大輔

## はじめに

蓑虫山人<sup>みのむしさんじん</sup>は、幕末から明治時代半ばに九州地方から東北地方までを旅した放浪の画人である。明治11～20（1878～1887）年には青森県に滞在し、弘前の平尾魯仙<sup>らせん</sup>や下沢保躬<sup>やすみ</sup>を訪れ、津軽各地の知識人や文化人たちの紹介を受けたようである（青森県立郷土館 2008）。

さらに、蓑虫は平尾、あるいは下沢を通じて佐藤 部<sup>しづみ</sup>に会い、頻繁に遺跡や考古遺物についての情報交換を行い、蒐集した遺物を展示紹介する「書画会」を開催した。

このように明治13～17年の間に訪れた先々での出来事が『山人写画』（絵日記青森編）に描かれており、さらに蓑虫が下北および津軽地方を歩き、そこで蒐集・見聞した遺物を描いた『陸奥全国神代石并古陶之図』には『山人写画』中の遺物スケッチが彩色して描かれている（青森県立郷土館 2008）。また、近年、三沢市先人記念館<sup>やすとう</sup>に保管される廣澤安任関連資料に蓑虫の描いた土偶図があることが判明している（太田原 2021）。

## 蓑虫山人と本山コレクション

蓑虫山人が青森県滞在中に蒐集した考古資料の中には、後に神田孝平が譲り受け、現在関西

大学博物館に「本山コレクション」として所蔵されている資料が含まれる。これまでに、亀ヶ岡遺跡出土とされる蝙蝠形土偶（第2図a）や片口形土器などが、蓑虫山人由来の資料として確認されている（青森県立郷土館 2008、山口 2018）。

本山コレクションは、元大阪毎日新聞社社長の本山彦一が蒐集した考古資料からなる総数約2万点を数えるコレクションである。その中には、上述の神田孝平のコレクションやなにわの知の巨人といわれた木村兼葭堂旧蔵の資料も含まれ、2011年には国の登録有形文化財に登録された。

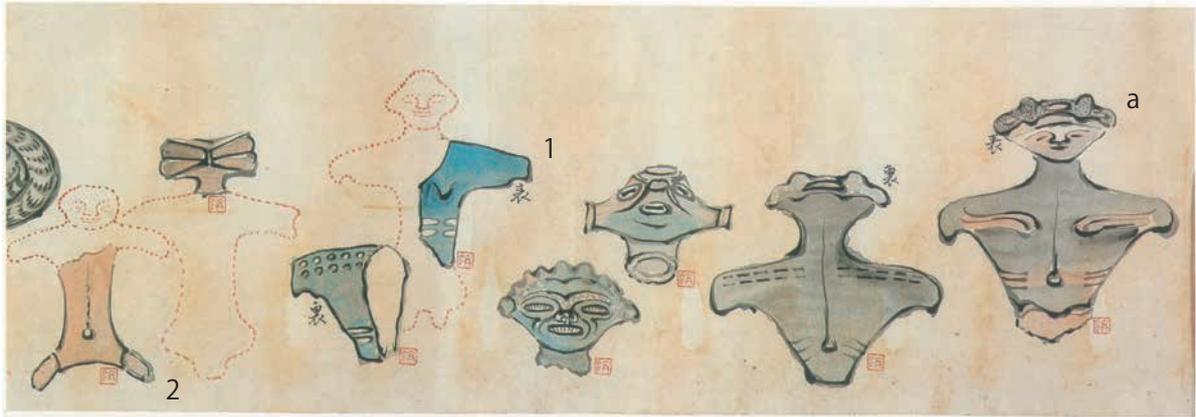
当館では2017年度から当コレクションの再整理・再調査を実施しており、その際に元は蓑虫山人が蒐集し、その後神田や本山の手を経て当館に収蔵されることとなったと考えられる土偶3点を確認したため、ここに報告する。

## 蓑虫山人由来の土偶

先にみたように、蓑虫山人は青森県内を行脚する中で蒐集した考古遺物を自ら描き記録している。その中には、形態等の類似度から当館所蔵の本山コレクション中にみられる資料と同一個体である可能性が高い資料が示されている。



第1図 本山コレクションの土偶実測図 (S=1/3)・写真 (縮尺任意)



第2図 陸奥全国神代石井古陶之図にみえる本山コレクションの土偶

以下、蓑虫が描いた図画と資料の実測図および写真を提示し、同一資料である可能性を検討する。

第1図1は、左胸・腹部から腕部が遺存する資料でそれ以外の部位は欠損する。腕部分は中実であるが、それ以外の胸部から腹部にかけては中空となる。外面には乳房が表現され、腹部には細沈線で肋骨様のモチーフが施され、腕部背面には竹管による円形の刺突文が二段にわたり施文される。その形態と文様の特徴から、第2図1と同一資料であると考えられる。

2は、上半身の胸部以下と脚部の付根がわずかに遺存する資料である。支柱となる粘土塊に薄い粘土を貼り付けて成形する。腹部が円形に突出し、そこから胸部にかけてペン先状の工具で縦位に押引状の刺突文が施される。やはりその形態と文様から第2図2として描かれた資料に相当するものと考えられる。

3は胸部から腹部にかけての部分が遺存し、頭部・両腕・両脚を欠く。首に近い部分に粘土塊により豆粒状の突起が貼り付けられており、あるいは乳房を表現したものとも考えられるが、同様の突起は背面にもみられるため、断定はできない。2の資料と同様に支柱となる舌状を呈する粘土塊に薄い粘土を貼り付けて成形する。第2図に示した『陸奥全国神代石井古陶之図』中には当該資料はみられないが、近年提示された廣澤安任関係資料の中にこれに該当すると思われる土偶が描かれている（太田原 2021の資料3を参照）。

## おわりに

関西大学博物館が所蔵する本山コレクションの中には、様々な来歴を有す資料が含まれてい

る。蓑虫山人由来の青森県出土資料についても、神田孝平の手に渡った後に本山彦一の所蔵となり、現在当館が所蔵するにいたっている。蓑虫山人が残した図画に当館所蔵資料と同一と考えられるものがみられ、これまでにも亀ヶ岡遺跡出土とされる蝙蝠形土偶や片口形土器などが蓑虫山人旧蔵の資料であることが確認できている。

今回、当コレクションの再整理・再調査を行う中で、新たに蓑虫山人由来と考えられる土偶3点を確認し紹介した。当コレクションに含まれる考古資料の中には、残念ながら出土遺跡が不明なものやその来歴が確かでないものも含まれている。考古資料として出土遺物を評価する際には、遺跡と遺物を切り離して考えることはできず、遺物が出土した遺跡を特定することやその来歴を明らかにすることは必要不可欠な作業であるといえよう。今後も当コレクションの調査を継続的に実施し、個別資料の再評価を行っていく必要がある。

## 【参考文献】

- 青森県立郷土館 2008『蓑虫山人と青森 放浪の画家が描いた明治の青森』
- 太田原慶子 2021「蓑虫山人が夢みた博物館－資料「廣澤安任自筆草稿」を中心に－」『青森県立郷土館研究紀要』第45号
- 山口卓也 2018「蓑虫山人の片口形土器－本山コレクションと数寄者・好者－」『阡隄』No.77 関西大学博物館

## 【図の出典】

- 第1図：筆者実測・トレース・写真撮影
- 第2図：青森県立郷土館 2008『蓑虫山人と青森 放浪の画家が描いた明治の青森』7-15を一部改変

関西大学博物館学芸員